

【7月1日（火） 14:00～15:00 公募説明会】

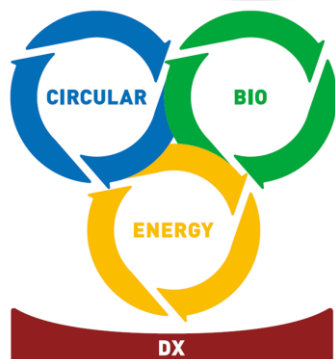
フードテック分野の俯瞰分析に関する調査

※原則として、**カメラオフ**、**音声ミュート**でお願いします。

事務局側から強制的に操作させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

※会議においてご発言をされたい方は**ミュートを解除してご発言**いただくか、**チャット**、**挙手機能**をご利用下さい。なお、**挙手機能**をご利用いただいた場合、**発言後オフ**にさせていただきますようお願いいたします。

※音声聞き取りにくいという場合は、随時、ご指摘いただければ幸いです。ただし、ネットワークやシステムの問題などで生じている場合は、事務局では対応が出来ないことがあることもご理解いただけますようお願いいたします。



イノベーション戦略センター
アグリ・フードテックユニット

1. Innovation Outlook Version 1.0
2. 調査仕様について(目的・内容)
3. スケジュール等
4. 提案書類の提出（期限、提出先他）
5. その他（連絡先）

1. Innovation Outlook Version 1.0

2025年7月1日 10時 NEDOホームページ上で公開

URL : https://www.nedo.go.jp/ext/ZZ_101102.html

背景：

- 「持続可能な食料供給」、「生産性の向上」、「豊かで健康な食生活」を実現するため、
- 「フードテック」分野は、「重要な役割」を果たすことが期待され、「新たなビジネス」を創出することが期待されている。

目的：

- 国内外のフードテック分野の市場・技術・政策動向を俯瞰的に調査する。
- 我が国のフードテック分野の課題を明らかにし、新規技術領域を特定する。

2. 目的

NEDOイノベーション戦略センターは、フードテック分野における調査・分析を通して、我が国の農林水産・食品分野におけるあるべき姿の検討とイノベーションを起こすべき領域を特定するInnovation Outlookの策定に取り組んでいる。農林水産・食品分野に関する様々な社会課題の解決や多様化した食の需要に対応し、持続可能な食料供給、生産性の向上および豊かで健康な食生活を実現するため、フードテック分野は重要な役割を果たし、新たなビジネスの創出が期待されている。本調査では、市場・技術・政策動向等を俯瞰的に調査・分析することにより、我が国のフードテック分野の課題を明らかにし、将来における社会課題の解決、あるいは新価値創造等を実現し得る新規技術領域を特定する。

2. フードテック領域

(出所：フードテックをめぐる状況 R7年6月 大臣官房新事業・食品産業部（農林水産省）)

生産から加工、流通、消費等へとつながる食分野の新しい技術及びその技術を活用したビジネスモデル

<担当者の思い>

・フードテック分野には右記の技術領域は**最低限含まれる**ことを想定。これに限定するものではなく、国内外の最新動向を加えて頂きたい。

<右記資料の出所>

<https://food-tech.maff.go.jp/about/>

・フードテック分野は広範囲に及ぶため、**濃淡を付けて俯瞰調査を進めたい。**

・2023年度以降に当該ユニットにて調査を実施している「**農業用ロボット**」、「**フードロス**」、「**陸上養殖**」以外の分野を厚めに調査したい。

目指す姿

日本発のフードテックビジネスを育成することで、日本と世界の食料・環境問題の解決に貢献するとともに、日本を活性化する新しい産業を創出し、日本経済の発展に貢献する。

(1) 世界の食料需要の増大に対応した持続可能な食料供給を実現する

【現状】

- ・増大する食料需要や地球環境への負荷、生産資材の価格高騰等のリスクに直面している中、持続可能な食料供給を実現する必要がある。
- ・プラントベースドフード、ゲノム編集育種、昆虫や微生物の活用、細胞性食品、AI等を活用したフードロスの削減などの研究開発が進展している。

【将来】

- ・気候変動への対応や生物多様性保全など地球環境への負荷低減と、タンパク質源等の食料供給の増大を両立する。
- ・食肉・食用水産物と細胞性食品は、今後も増加する食料需要を共に担うものであることを踏まえ、既存の産業との両立を図る。

(2) 食品産業の生産性の向上を実現する

【現状】

- ・人口減少・高齢化や原材料価格高騰等により、食品産業が厳しい状況下にあるため、スマート化により生産性向上を図る必要がある。
- ・AI・ロボットについて現場環境に応じたカスタマイズや対応範囲の拡大が進められている。

【将来】

- ・サプライチェーンにおける過重な労働負担・人手不足を解消し、食料の持続可能な供給を実現する。

(3) 個人の多様なニーズを満たす豊かで健康な食生活を実現する

【現状】

- ・健康やアレルギー対応等、様々なニーズに最適化した食品やサービス等の開発が必要である。
- ・機能性成分含有量の多い作物、完全栄養食、各個人に最適な食事の提案を行うアプリ、食に制限のある者に対する製品等の開発が進展している。

【将来】

- ・個人の嗜好、信条、ライフスタイル、健康状態等を踏まえて個別最適化した食体験を提供することで、心身の健康を実現する。

内容

(1) フードテック分野における技術領域の整理および新規技術領域の候補の特定

- ・机上調査を基にフードテック分野の**俯瞰的調査を実施する。**
- ・俯瞰的な調査・分析に基づき、**新規技術領域の候補を抽出する。**
新規技術領域の候補に含まれる要素技術として、TRL 2～4 を想定
- ・最終的には技術領域の構造把握を可能とする**技術マップを作成する。**
複数の切り口を設定し、マッピングする
- ・新規技術領域の候補に、「**ヘルスフードテック分野**」に属する技術領域が含まれることを想定している。

(1) フードテック分野における技術領域の整理および新規技術領域の候補の特定

フードテック分野に関する国内外の市場・技術・政策動向等を俯瞰的に調査・分析し、当該分野における課題と技術領域を整理する。さらに、机上調査を基に複数の切り口を設定し、マッピングする（技術領域の構造把握）。また、これら技術領域の俯瞰的な調査・分析に基づき、新規技術領域の候補（含まれる要素技術として、Technology Readiness Level (TRL)が2から4を想定）を複数抽出する。なお、新規技術領域の候補に、「ヘルスフードテック分野」に属する技術領域が含まれることを想定している。

内容

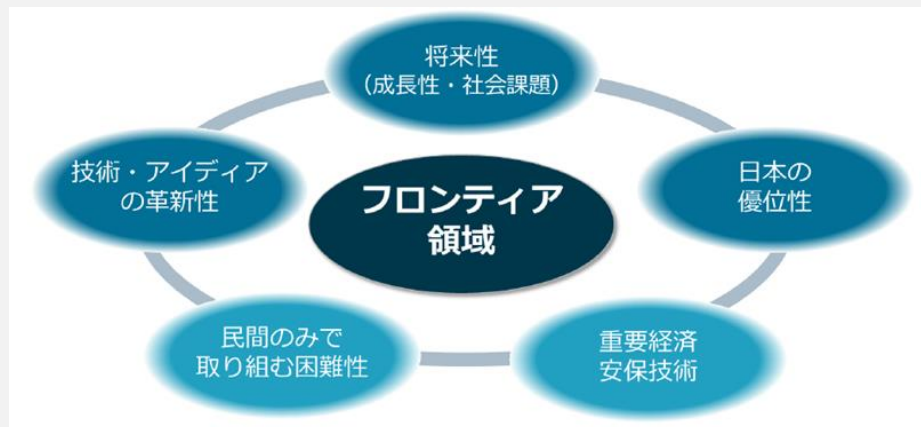
(2) 新規技術領域の絞り込み

・新規技術領域の候補 → 新規技術領域(5 から 1 0 件)

例を参考に評価軸と重みを設定する

例)

- ・将来性（市場性、生産性等）
- ・技術やアイデアの革新性
- ・民間のみで取組む困難性
- ・日本の優位性
- ・食料安全保障への貢献度
- ・環境課題への貢献度
- ・Well-beingの実現可能性 等



出所：フロンティア領域の考え方(2025年1月24日 経済産業省イノベーション・環境局)
https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sangyo_gijutsu/innovation/pdf/005_04_00.pdf

(2) 新規技術領域の絞り込み

(1) で抽出した新規技術領域の候補に対し、以下の例を参考に評価の軸と重みを設定し、5 から 1 0 件の新規技術領域を絞り込む。

内容

(3) 新規技術領域の**社会インパクト**の検討

- ・新規技術領域(5 から 1 0 件)について社会インパクトを定性的・定量的に評価する。

評価軸を設定する

(3) 新規技術領域の**社会インパクト**の検討

(2) で絞り込んだ新規技術領域について、評価軸を設定し、それぞれが社会実装された場合の社会インパクト（社会課題解決や価値創出の可能性等）の定性的・定量的な評価を行う。

内容

(4) 社会実装に向けた展望とロードマップの作成

- ・社会インパクトが比較的大きいと判断した**3から5件を選定する**
- ・**社会実装に向けた展望とロードマップを作成する**
シナリオプランニングや創造的思考等の手法を用いる

下記項目を含める

含める項目：

- ・当該技術領域が産業構造に与える変化や新規プレイヤーの参入可能性
- ・社会実装に向けて必要となるプレイヤー（産・官・学）、関連技術、政策支援、市場整備等
- ・技術開発の課題、社会実装に向けた課題

(4) 社会実装に向けた展望とロードマップの作成

(3) で社会インパクトが比較的大きいと判断した3から5件の新規技術領域について、以下の項目を含め、シナリオプランニングや創造的思考等の手法を用いた検討を行い、社会実装に向けたロードマップを作成する。

- ・当該技術領域が産業構造に与える変化や新規プレイヤーの参入可能性
- ・社会実装に向けて必要となるプレイヤー（産・官・学）、関連技術、政策支援、市場整備等
- ・技術開発の課題、社会実装に向けた課題

有識者ヒアリングの実施

(2)、(3)の調査内容については、客観性や網羅性を担保するため、事前にヒアリング項目を検討した上で、国内外の企業、大学・研究機関等の有識者に対し、適切なタイミングでヒアリングを行う。なお、事前にヒアリング先の候補者を複数提示し、NEDOと協議の上、決定する。ヒアリング記録を資料として整理・提出すること。

(2) 新規技術領域の絞り込み、(3) 新規技術領域の社会インパクトの検討 ヒアリング記録を資料として整理・提出する

有識者委員会の開催

(1)、(2)、(3)、(4)の調査内容（評価・分析方法、考察、調査の方向性等）については、客観性や網羅性を担保するため、各回の論点を明確にした上で、有識者委員会を3回程度、開催する。委員会の開催後、速やかに意見を集約するとともに、対応方針を作成の上、NEDOへ報告する。

有識者委員会に係る資料の作成・配布、説明・質疑対応、会場の手配・設営、運営（オンライン開催に必要な手配を含む）および議事録作成等を行う。委員の選定については、本調査に関連する有識者候補を複数提示し、NEDOと協議の上、決定する。

(1)～(4)の全て 有識者候補を複数提示する

スケジュール(赤文字)については想定であり、NEDOの調査方針や協議により変更の可能性あり

■ 予算金額：2,000万円以下

■ スケジュール

- 6月26日 公募開始
- 7月下旬頃 採択決定（予定）
- 8月上旬頃 調査開始（予定）
- ～9月下旬 (1)フードテック分野俯瞰分析、新規技術領域候補の抽出
- ～10月下旬 (2)新規技術領域の選定(5～10件)
- ～11月下旬 (3)新規技術領域の社会インパクト評価
- ～2月下旬 (4)社会実装に向けた展望とロードマップの作成
- 3月31日 委託期間終了

■ 注意事項

- 上記目的達成に向け、情報を補完する調査項目を追加することは妨げない。
- その他、NEDOから要請があった場合は、協議のうえ、可能な限り反映する。
- 以上の実施内容について、NEDO担当者に対し対面又はWeb会議等によりひと月に1回程度以上の進捗報告を行う。
- 委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会等における報告を依頼することがある。

4. 提案書類の提出（期限、提出先他）

本公募要領に従って「提案書」を作成し、その他添付書類とともに提案書類として以下の**提出期限までにアップロードを完了**させてください。なお、持参、郵送、FAX又は電子メールによる提出は受け付けません。

本公募「フードテック分野の俯瞰分析に関する調査」に係る公募について
https://www.nedo.go.jp/koubo/NA2_100250.html

提出先

[Web入力フォーム](#)

提出期限：2025年7月11日（金）正午（日本時間）

※ 必須項目が入力されていないと受付登録できません。

※ 再提出は期限内なら何度でも可能です。同一の提案者から複数の提案書類が提出された場合は、最後の提出のみを有効とします。

また、再提出の場合は、差分ではなく、全書類を再提出してください。

※ 登録、応募内容確認、送信ボタンを押した後に受付番号が表示されるまでを、受付期間内に完了させてください。

入力・アップロード等の操作の途中で提出期限が来て完了できなかった場合は、受け付けません。

※ 通信トラフィック状況等により、入力やアップロードに時間がかかる場合があります。

特に期限直前は混雑する可能性がありますので、余裕をもって提出してください。

※ アップロードするファイルは、全てPDF形式で、一つのzipファイルにまとめてください。



5. その他（連絡先）

・お問い合わせ先

イノベーション戦略センター アグリ・フードテックユニット

担当者：宇木、水野、渡邊、萩原、二関

E-MAIL：tsc-agri-foodtech-u@ml.nedo.go.jp